現場の声：訪問看護から

梅丘訪問看護ステーション

CHIEF AREA PROMOTOR　野田 祐太郎

理学療法士免許を取得後、回復期リハビリテーション病院にて経験を積み、現在の在宅分野に携わりました。入社のきっかけは病院勤務時に、ご利用者様がご退院後、どのような在宅生活を過ごしているかに興味を持ち、少しでも安心した在宅生活を支援したいという思いからでした。入社７年後の今もその気持ちは変わりません。入社時は経験も浅く、不安な気持ちが強かったですが、看護師、セラピスト、ケアマネジャー、福祉用具専門相談員といった事業所先輩方のアドバイス、社内研修、ご利用者様に関わる他職種の皆様、地域交流会を通じて経験を重ね、今では自信をもってサービスを提供できるようになりました。

病院勤務時は身体機能の改善や退院できることを目標にリハビリテーションを提供していましたが、在宅では、ご利用者様が住み慣れた地域でどのように過ごしていきたいか（目標）、その目標を達成するためには何が必要か（ニード）、今一番困っていることは何か（主訴）を、ご利用者様を取り巻く多職種と共有・連携し解決していきます。その一手段としてリハビリテーションがあり、ご利用者様の生活の一環として携わることが多いです。目標を達成できた時のご利用者様の満面の笑み、ご家族様の安心した表情、感謝のお言葉を頂くと、在宅分野に携わって本当に良かったなと感じる場面も多く、やりがいを感じます。住み慣れた地域の中で「ご利用者様」と「セラピスト」ではなく、「人」と「人」として接することもできることが在宅の大きな魅力となっています。

また私は、社内で主任という役職を任されています。事業所の内部調整や外部への発信、スタッフのマネジメント・相談、他職種との連携を担っています。訪問看護ステーションの管理者は看護師の所長であることから、所長のサポートや社内伝達等、主任の業務内容は多岐にわたります。訪問は病院と違って、サービス提供時は一人で動くことが多い為、「チーム」としての役割や協調性といったことも重要になってきます。リーダーシップを発揮し、スタッフの個性を引き出しながら、地域が求めている「トータルライフケアの訪問看護ステーション」を構築させていくことは、病院や他の訪問看護ステーションでは決して経験できない良い機会となっています。結果、地域貢献ができ、ご利用者様本位である質の高いサービスが提供できます。また、自身のキャリアアップ、人として成長できる機会にもなっています。

みなさんも、ぜひ弊社でご利用者様本位のリハビリを実践してみませんか？

そして、管理職として、自分自身の更なる成長を図ってみませんか？

一緒に働けることを楽しみにしています。

